

I 主題設定の理由

平成 28 年 12 月に出された中央教育審議会答申『幼稚園、小学校、中学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』において、学校教育を通じて子供たちに育てたい姿の一つとして、「対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝えとともに、他者の考えを理解し、自分の考えを広げ深めたり、集団としての考えを発展させたり、他者への思いやりを持って多様な人々と協働したりしていくことができること」と挙げている。さらに、「様々な情報を理解して考えを形成し、文章等により表現していくために必要な読解力は、学習の基盤として時代を超えて常に重要なもの」であるとも示している。

答申の趣旨を踏まえ、今後ますます情報化、グローバル化が進んでいく社会の中で子供たちが生き抜いていくために、「他者理解」と「自己表現」の育成が学習指導要領においても求められ、そのために必要となる「読解力」を、発達段階に応じて身に付けさせていくことが重要であると言える。

私は、本年度より導入実施された「一部教科担任制」により、第 5 学年 3 学級(104 名)の国語の授業を担当している。学年の雰囲気としては、国語科の学習に主体的に取り組み、自分の意見を積極的に発表するなど発表に対して意欲的である。一方で、発問に対する発言が単なる思い付きの発言であったり、根拠がなかったりするという基本的な読解力の未定着さに課題を感じた。

この課題を解決するために物語や文章のどの部分からそのように理解したのか、何を根拠としての考えなのかを自分の言葉で説明する能力を身に付けさせるため、前段で述べた読解力を育成する必要性を強く感じた。基本的な読解力を育成することで、①相手の発言の意図をより深く理解できること、②自分の伝えたいことの趣旨を相手に伝える力を高めることが可能となるのではないかと考える。

さらに、読解力が高まることによって、将来、世代や国籍を問わず多様な人々と接し、協働して仕事を進めていくことができるという点で、読解力の育成は大変意義深いことである。

そこで本稿では、第 5 学年国語科において、「他者の考えを理解するとともに、自分の考えを根拠をもって伝えることのできる児童」の育成を目指し、そのために必要な「読解力」を身に付けさせるために有効な言語活動を究明する。

II 研究の目標

これからの社会を生き抜くために必要となる力である読解力の向上を図るため、多様な言語活動を通して、他者の考えを理解するとともに、自分の考えを根拠をもって伝える力を育成する。

III 研究の仮説

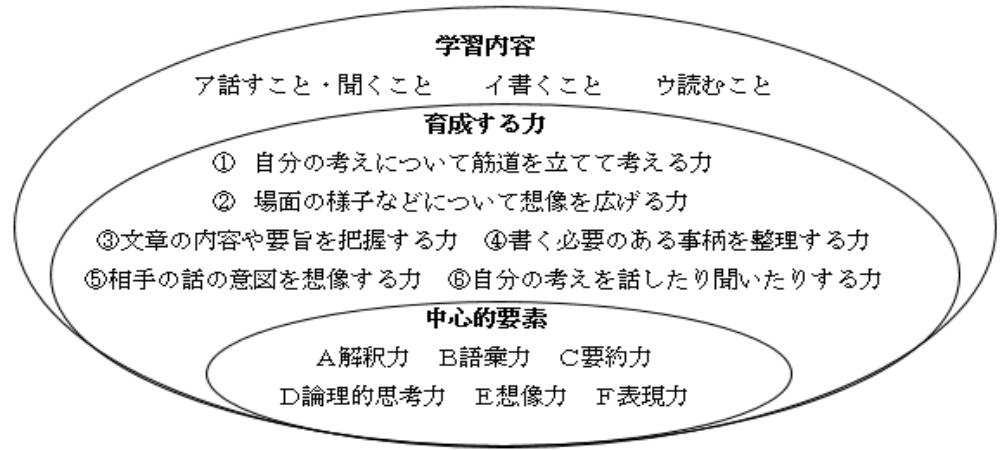
国語科の授業において、読解力を育成するための多様な言語活動を行えば、他者の考えを理解するとともに、自分の考えを根拠をもって伝える力を育成することができるであろう。

IV 研究の実際

1 読解力とは

先行研究、書籍をもとに読解力についてまとめ、実際の学習でどのような力を身に付けさせたいのかを整理した。

【読解力構成三要素】



2 言語活動を通した指導の工夫

読解力を高めるために効果的な活動とするために、「読解力の構成三要素」を意識した授業づくりを行うことにした。

(1) 解釈力・論理的思考力の向上(読解力構成三要素 A・D、①②③、ウ)

文章を読んで理解したことに基づき、自分の考えをまとめることができるようにするために、重松清『カレーライス』を題材にして、解釈読みを行った。

問い:ひろしがお父さんに謝りたいのに素直に謝れないのはなぜだろう。場面の様子、会話などひろしの人物像をもとに考えよう。

【児童の最初の反応】

- 謝りたくなかったから。
- まだお父さんのしたことに対して怒っているから。
- 謝るのが面倒だから。
- お父さんと口をききたくないから。

【課題】

- お父さんの気持ちやひろしの心の描写などの読み取りができていない。

【手立て】

- ① ひろしと父親の心情が描かれている部分に線を引かせる。
- ② ペア学習で、父親役、ひろし役を演じさせ、それぞれがどのような思いで下線部の発言をしたのかを話し合わせる。
- ③ 自分がひろしなら、どのように父親に謝るかをノートに書かせ、グループで話し合わせる。

【手立て後の児童の反応】

- ひろしの謝りたいのに謝れないという気持ちが「言葉がもやもやとしたけむりみたいになって、むねの中にたまる」という表現から分かる。
- 「ぼくはだまったままだった」から、自分でもどうしてよいか分からないことが分かる。

【成果】

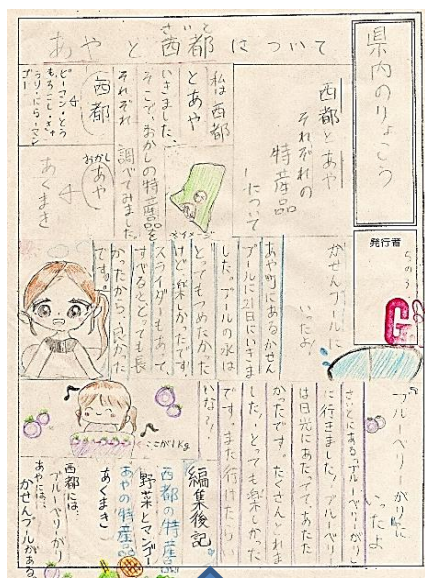
- 文中の言葉を根拠とした、ひろしの心情の読み取りができるようになった。

【指導の成果】

- 当初は、文章の描写等は考えずに思い付きでの発言が主であったが、ひろしや父親の立場になって発言の内容を考えさせたり、自分がひろしであったら、どのような謝り方をするかを話し合わせたりしたことで、解釈力が高まり、物語全体の様子を理解するとともに、それを根拠に問いに対する答えを導き出すことができるようになった。
- グループ活動において、「自分がひろしの立場だったらどうするか」や「父親に対して素直に謝る言葉」を考えさせ、伝え合う中で、自分の考えを論理的に思考する能力を高めることができた。

(2) 語彙力・要約力の向上(読解力構成三要素 B・C、③④、イ)

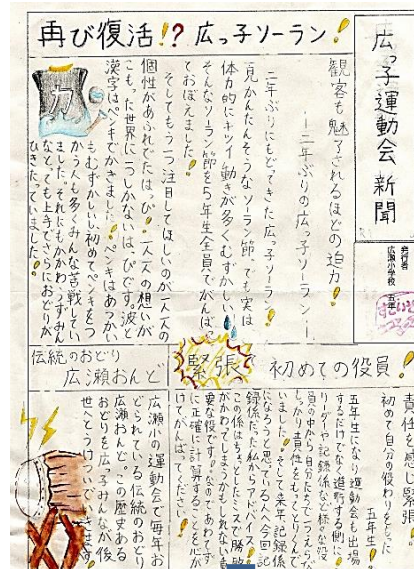
文章の内容を的確に把握し、相手に伝えるために必要な事柄を整理する力を高めるために、各行事や季節に応じた「出来事新聞づくり」を行った。(●は課題、○は成果)



【手立て】

① 見出しの工夫
見出しが記事の要約になることを押さえ、読み手が「読みたい」と興味を引かれるようなものにする。

② 記事の書き方の工夫
事実(5W1H) + 意見(特におすすめるもの、経験したからこそ気付いたことなど)を書くように指示し、知っている言葉を適切に使用できるよう、意識付けさせる。



【夏休み出来事新聞】

- イラストを挿入するなど、レイアウトの工夫は見られるが、見出しが「あやと西都について」と単調なものとなっている。
- 記事の内容が「楽しかった」「また行きたい」という感想のみに終始しており、読み手に何を伝えたいのか印象が弱い。



新聞づくりをしている様子

【運動会新聞】

- 見出しが、「再び復活!? 広っ子ソーラン」など、読み手の興味を引くことができたようになった。
- 記事が感想のみに終始せず、「自分達で、はっぴの背に書いた波と漢字により、ソーラン節がさらに引き立った」という読み手に印象を残す文章に変わった。

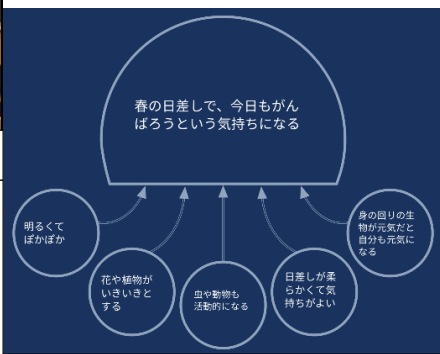
【指導の成果】

- 当初は、感想のみで終わっていた記事の内容が、「読み手」を意識し、伝えたいことの本質を掴みながら簡潔に記事をまとめるなど、要約力が高まった。
- 新聞を定期的に作成させることにより、使いこなせる言葉の数が増え、記事の内容から表現の幅を広げることができた。

(3) 想像力・表現力の向上 (【読解力構成三要素】D・E・F、④⑤⑥、アイ)

自分の考えを相手に分かりやすく伝える力と、相手が何を伝えたいのか意図を想像しながら聞く力を身に付けさせるために、清少納言の『枕草子』を題材に、自分が好きな季節の時間帯とその理由を伝え合う活動を行った。(●は課題、○は成果)

【1回目】	【手立て】	【2回目】
※()内の太字は、児童が書いたもの。 春は(昼)がよい。(ぽかぽかして暖かく、昼寝するのが気持ちがいい。春の日差しでがんばろうという気持ちになる。) ● 具体的な場面の様子や自身	①対話で理解を深める 対話を通して、自分の考えが相手に伝わったかを確認させる。 ②思考を深める ロイロノートのシンキングツール「クラゲチャート」に自分が考えたことを整理させる。	春は(昼)がよい。(日光が暖かく、昼寝をすると気持ちがよいから。春の日差しに照らされてチョウやハチなどが花から花へ飛び交う様子も素敵である。春の明るい日差しにより、虫達だけでなく植物や動物が活動的になるのも春を

の心情描写が乏しい。 	③質問で理解を深める 疑問に思った部分について聞き手は、話し手に質問する。	感じられて、とてもよい。生き物全てを元気にする春の日差しのおかげで、僕もがんばろうという気持ちになる。) ○ 具体的な情景描写となり、考えの意図が伝わってくる表現になった。
ペアで伝え合う様子 【対話の様子】 A:聞く児童 B:伝える児童 A「暖かくて昼寝するのは、気持ちがいいよね。でも、どうして今日もがんばろうという気持ちになるの？」 B「えっと…。がんばろうという気持ちになるのは、どうしてかな…。」 ● 相手からの質問に対して思考の整理ができておらず、言葉に詰まってしまった。	 クラゲチャート 	

【指導の成果】

- クラゲチャートを活用し、思考を整理させることで、具体的な様子の描写など根拠を示しながら相手に伝えることができるようになるなど、児童の表現力を高めることができた。
- 伝える側の児童が自分の考えを論理的に整理し、その季節をどのように感じているのかを適切に表現できるようになったことで、聞く側の児童は、その季節の情景を心に思い浮かべたり、推し量ったりすることができるなど、想像しながら聞く力が高まった。

VI 研究の成果と課題(成果○、課題●)

本研究における成果と課題を以下に示す。

- 対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝える指導の手立てを行ったことにより、自分の考えを広げ深めたり、友達と協働して課題解決したりするなど、主体的に学習する態度を育成することができた。
- 各言語活動を通して、解釈力を始めとする「読解力」が高まることにより、相手の発言の意図をより深く理解しようとする態度が育つとともに、アンケートの結果、自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができるという項目の数値が高まったことから、論理的思考力を高めることにつながったと考えられる。
- 読解力育成については、性急に成果を求めることは難しいと考える。本年度の研究の成果を確かめ、課題を明確にし、来年度につながる継続的な指導を行っていきたい。

【参考文献】

国立教育政策研究所(2010) 評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(小学校国語)
中央教育審議会(2015)幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について
文部科学省(2016)小学校学習指導要領解説 国語編 東洋館出版社

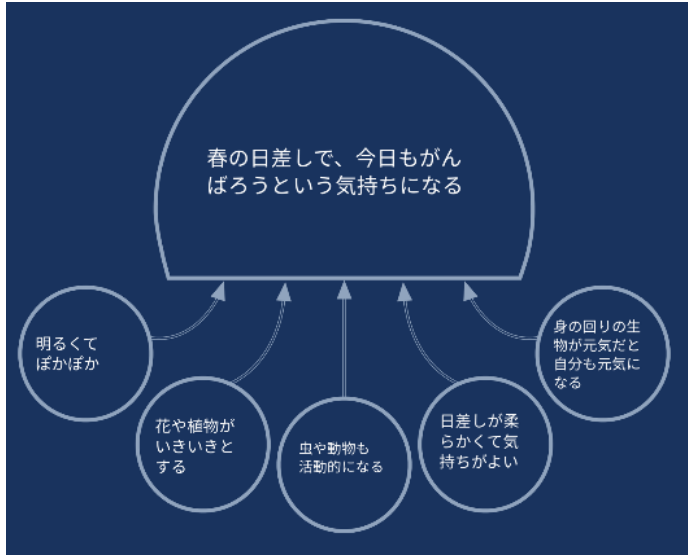
(1) 読解力・論理的思考力の向上(手立て後に児童が記入した『カレーライス』ワークブック(論文 2 ページ))

カレーライス

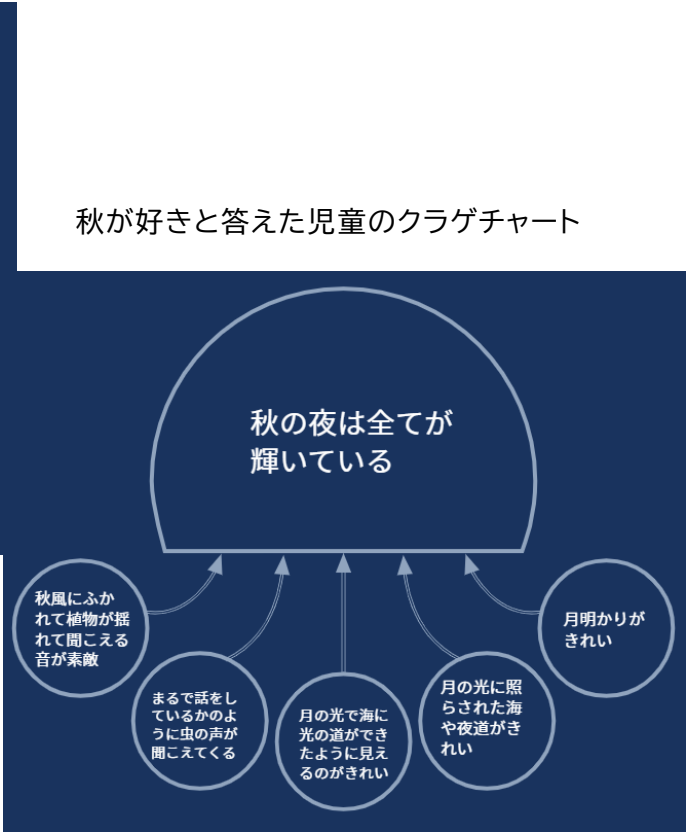
めあて

ひろしになったつもりで、お父さんに謝る言葉を考えよう。

(3) 想像力・表現力の向上(クラゲチャート(論文 4 ページ)拡大写真)



春が好きと答えた児童のクラゲチャート



秋が好きと答えた児童のクラゲチャート

【学習に関するアンケート結果】

